

幼 兒 教 育

第 十 九 卷 第 三 號
大 正 八 年 三 月 一 日 發 行

目 次

かく育てたしと思ふこと	倉橋惣三
表情遊戯	土川五郎
神戸幼稚園の新しい試みの一端	志賀末
古端書細工をお勧めしたい	小山ひで
琴平だより	久住もと
三月の園藝	有川ひさえ
おもちゃや繪の話	権田保之助

日 本 幼 稚 園 協 會

會 告

○會費御拂ひ込みの節は御名前前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊 郵税共金拾六錢 六冊前金郵税共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正八年二月廿八日印刷納本
大正八年三月一日發行

東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

印 刷 者 東京市本所區番場町四番地 功
守 岡

印 刷 所 東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會

幼 兒 教 育

第十九卷
第三號

大正八年三月一日發行

斯く育てたしと思ふこと

——日本幼稚園協會二月常會の講話——

倉 橋 惣 三

今日は、權田文學士を煩はして、私共、御一緒に「おもちゃ繪」のお話を伺ひ、また多數お集めになつた珍しい繪をゆつくり拜見するのが主なる目的であります。丁度、戸外には奇麗な雪がさつきから大分積つて居ります。こんな日に、靜かな室に集つて古風な「おもちゃ繪」を拜見する事は誠にふさはしい趣味深い事と思ひます。其の樂しみを後に仕舞つて置いて、私は少しばかりの間、「子供を如何に育てるか」とどう育てたいと思ふかと云ふ事を御一緒に考へ見たいと思ひます。

扱て、此の「斯くの如く子供を育てたしと思ふ」

と云ふ題は、私が自分で出して置いてかう申上るのも可笑しいわけですが、多分皆さんの御興味をひく問題であると思ひます。今日は家庭の方々もお見えになつて居る様ですが、子供をお持ちの方々、また幼稚園の教育者として、「如何に子供を育てるべきか」と云ふ事は、極めて大切な、又緊急問題です。所がまた考へて見ると、かゝる題ほど一場の演題として不適當なものはないのであります。即ち「子供をどう育てるか」と云へば誰れでも立派な人間、完全な人間、圓滿な人間にしたい。要するに、彼方も此方も、一つの落度も偏よる

處もない様に、完全無缺に育てたいと思ふ他はないので、其の中の特に一つ二つをぬいて「これこれだけ」と云ふ事は出来ません。例へば「からだを丈夫に」と云ふ。それでは心はどうでもよいときけば、勿論心も立派にと云ふ。伶俐にしたい。——それぢや伶俐だけでよいかと云へば、いえ、それ丈では困ると云ふ。人間は兎角慾張りなものです、其の中でも親とか教育者とか云ふ人々の持つ教育目的位、慾張るものはありません。

斯ういふ譯で、そのあれもこれもの中から、「斯くの如く……」と云ふ一つを示して考へる事は面白い様で其の實六かしい。殊に一方に偏するものになりやすい。假りに一つ二つを云つたとて「それ丈けでよいか」と云はれば勿論そうでない。今日私が「かくありたし」と申上げるのも、それだけでよいと思ふのではありません。それだけが教育の目的であると、誤解して頂かない様に願ひます。つまり今日のお話は、このごろ私の特に心

に浮べて考へて居ることを隨感的に申上げるので幼児教育の目的論を理論的に整理して申上げるのではありません。之れは豫めお含みを願つて置きます。

そこで、勿論此處で申上ますのは幼稚園期の子供——學齡期前——を主としてでありまして、従つて、大體に於て智慧をつけると云ふ事よりも訓育と云ふ様な方面になるのでありますが、此の時期の子供の訓育上、最も願はしいことは、是非心すべきことは子供に道德の意識を持たせたくないと思ふこととあります。之れは一寸妙なことを申す様ですが、私は切實にそう思ひます。例へば子供が正直な事をするにしても、「かくく」の事が正直である」と知つたり或は「自分が今、正直をして居る」と氣がつく事のない様にしたいたいものだと思ふのであります。つまり道德を出来るだけ意識生活にさせない様にしたのであります。

處が從來の所謂道德教育では、道德の意識とい

ふことが主になり過ぎて居る様に思ふ。換言すれば子供に餘り早くから道徳の名稱を教へ過ぎると思はれるのです。これが正直、これが勤勉などといふ風に自分や他人の爲て居る事を道徳的名稱に於て意識させ過ぎるのです。しかも我々の望む所はなるべくこの名をつける事をさけたいのです。

假りに實際問題を捉へて申しますならば、此處に先生が「親切」[○]についての話をなさるのを聞いて居ますと斯ふいふ風に話される。——雪の日に坂を車をひいてのぼつて行く人がある。後から太郎さんが車を押して上げてゐる。太郎さんは何をして居るのでせう。——先生が斯うお尋ねになると一人の子供が「それは太郎さんが車を押して上げて居るのです」と答へる。すると、先生は「そうではない」とは申されませんが、何だか飽足らぬ顔つきで「もつと何か外の事をしてはいませんか」と言はれる。すると、組の中でも特に惻かな評判のある子供が「先生、それは親切をして居る所、で

す」と答へる。是に至つて先生は出かしたりとばかり、「そうですね、そうですね。これは親切といふことをして居る所なのです。さあ皆様一所に云つて見ませう。親切!!」子供もいつしよに口を揃えて「親切!!」。そこで先生は得意顔で『そうですね、わかりましたネ。親切といふことを忘れてはいけませんよ。皆も親切をしなければいけませんよ』と。それから二三日経つて、又先生が『先日は何のお話をしましたか』と聞く。大低の子は忘れてしまつてゐるが、級の中でも記憶のよい子供が、『先生親切のお話』と答へる。先生は「そうですね、よく覚えてゐました」とほめる。また他の例をとれば、此處に一人の子供が何か過ちをしたとする。先生が答めると其子は無邪氣に有りの儘を答へる。すると先生は其の子を皆のまへにつれて行つて、『太郎さんは實にえらいです。皆さん何處がえらいか分つて居ますか、知つて居る人は手をお上げなさい』すると一兒が『太郎さんは正直です』先生は

ニコ／＼して『そうです。太郎さんは正直者です。皆も太郎さんの様に正直者にならなければなりません』と云ふ。これ等は一例に過ぎませんが、皆さんは斯ういふ道徳教育なるものを何とお考へになりますか。

我々の心の中にある事、身に體せる事を何とかして言葉でまとめてしまひたいのは人間の一つの欲望です。そしてこれとこれとは親切であるとかいや、これは勤勉の部に屬するとか云つて居る。

之れは知的生活としては已むを得ぬことですが、併し、これが道徳教育の上に於ては實に有害であると思ふのです。無駄な事ならまだしも我慢も出ませんが有害であるとは私は思ふのであります。私は何も人のして居る事を批難するわけではありませんが近來いろ／＼の所で子供の徳性の研究を試みられるのに、いつも道徳意識を調査する。其方は大きな兒には何か書いたものにより、幼兒には話をして問答するので例へば『一番よいと思ふ

徳は何か』と問ひ、これに對する答を集めて、忠と答へたものが何人、孝と答へたものが何人、親切と答へたものが何人、思ふ事を爲しとげる事と答へたものが何人、などと統計をとるのであります。之を逆にして行へば、「正直とは何ぞ」、「親切とは何ぞ」、「忠とは何ぞ」……などと道徳の定義を答へさせて其結果を調査し、何才では如何なる道徳意識があつて年齢と共に進歩の状態はどうであるかと云ふ類の事を見るのであります。この道徳意識は單に心理的に兒童の觀念内容の調査といふことならばそれでよいでせうがこの言葉をいくつ知つて居ると云ふ事で兒童の道徳生活の實際を知らうとするのなら大間違ひです。山の名をいくつ知つて居るか、河の名をいくつ知つて居るかと云ふ事と同様に道徳の名稱をいくつ知つて居るかと云ふ事を調べるのは一種の觀念内容の調査としては面白い事でせうがそれと道徳教育の効果如何と云ふ事とはどうしても混同する事は出来ません。

出来るだけ道徳意識を興へないで子供を育て、
彼等の世界から全く『道徳』といふものを取り去
る事は出来ないであろうか。もし之が出来たとす
ればかゝる間に育つた子供が成長してつくる社會
——大人の世界——はどんなものであろうか。私
は道徳の言葉、其觀念、其意識のない處に、或る
大きな幸福がありはしまいかとも考へるのです。
それ故に殊に學齡前の子供には出来るだけ其道徳
生活を意識の上へのぼせない様にしたいたいと思ふの
です。これが私の一つの希望なのです。

道徳上の言葉を教へると云ふ事は單に、つまらな
い事であると云ふ計りではありません。教へると反
つて道徳教育の害になるのです。皆さんも常に考
へていらつしやることでせうが、私共はよく、『頭
で考へた道徳ではいけない。體驗しなければなら
ぬ』と云ふ警告を聞きます。然るにこの「體驗」す
る事が實に難しいので、道徳上の言葉は、云ふ事も
考へる事も、出來行ふ事も又必ずしもそんなに難し

くはないけれ共體驗する即ち知らずくに其氣持
にはいつて居て思はず善い事をする程に自己が道
徳的になつて居ると云ふ事は誠に困難な事であり
ます。之れは何故でせうか。この原因については
私は私の幼兒期を教育して呉れた人々に對して怨
みがあると思ひます。我々は小さい時分から「よ
い事」を云つたり行つたり考へたりする様にのみ
教へられました。私共が自分でも何とも意識せず
ウツカリして居ることを、オセツカイな教育者は
「お前のして居る其の事、それが正直といふことだ、
道徳といふものだ」などと教へて呉れました。誠
に自然にしておけばウツカリとよい事をして居る
のにそれを一々意識にのぼる様に取扱つては其度
びに折角の眞な自然の體驗を壊してしまつたので
す。つまり道徳を餘り意識にのぼせつけたことが
害になつてしまつて、今となつて體驗の困難を感
ずるのです。

そこで、お話が少し飛びますが、次には道德の名稱にもよらず、意識にもおぼらせないで、どういふことを訓育の目的にするかと云ふ事でありま

す。今日のお話は寧ろ此點を主にしたいのですが、扱て此處が至難の點であります。私自身もこれより先はまだ分らないことが多いのですが、長らくろく迷つて居る中にも今日到達して居る一つの點を申上ますならば、それは『人の好意を感じる性情』といふ處にありはせぬかと思ふのです。もつと適切に言へば人の好意を受くるに敏感である」と云ふ事、この心持か道德生活の基本で、幼児の訓育の目的標準もこゝにあると思ふのです。子供は何と云つても子供ですから例へば清潔にせよと教へられ其言葉もよく承知してゐながら實際彼が弱きために出來ぬ事がある。又『人に對して親切なれ』と云つたとて何處迄彼等が之をまもる事が出来るでありませんか。子供が眞に體驗し得る道德生活を要求する事は中々無理困難な事に相違な

いが、しかし他人の好意を感受すといふことだけは、これは是非子供に持たせ得る、又持たせたいことと思ふのであります。

この私の云はんとする心持に極く適當した言葉が見當らないのですがこれは先づどうでもよいとして實際上子供を教育するに他の道德に關する事は随分致しますけれども、他人の好意を素直に受取つて之を感ぜさせると云ふ事は、誠に簡單な事でありながら却つて實際行はれて居りません。

我々大人の道德修養に於ても、例へば一ヶ月間の統計を取つて見れば、それは延引ならぬ時には嘘も云ふでせうし、つい不親切なこともするでせうが、大體を通じて我々はそんな鬼の様に故意な不親切者でもなく不正直者でもないと思ふが一番我々に缺けて居るものは人の好意を敏感に受入れると云ふ事ではありますまいか。しかもこの根本的のものなしに道德を築き上げる事は全く無意味な事となりはすまいか。正直のための正直、勤勉

のための勤勉、親切のための親切、などよく云ふけれども、理屈の上では兎も角も、實際人間は純粹に道德のために道德を實行し得るものでせうか。それよりも、我々人間の爲し得る事、また爲さねばならぬと教へられる事も、之をその源に溯れば先づ他人の好意を受け取り得るに始まるのでこれがなければ正直と云つても親切と云つても本當に身に體した力あるものとなる筈がないと思ひます。繰りかへして申せば、今日我々自身の行爲を假りに表につくつてあらはして見ますならば、正直もしてゐます、親切もしてゐます、決して謂ゆる不道德な事が多いとばかりは云へません。しかし其の正直なり親切なりの行爲が自分の何處から出發して居るのかと考へると其根底が頗る弱いと思ふ。我々は何故道德的行爲をするかと一歩溯つて考へ見ますと『道德だからする』しなればならぬからする』と云ふ所に歸着しやすい。こゝが——即ち道德なるが故にと云ふ出發點が——我

々の行爲に眞の力のない所以であると思ひます。

もし人が捨鉢になれば道德を羽織をぬぐ位に容易くぬぎ捨てる事も出来やう。世の中から退け者になつて悪人になつてもかまはないと云ふ度胸さへあれば、道德を捨てる事は實に容易い事であらう。斯うなると私は再び『我々道德生活の根底は何處であるか』と尋ねたい。『良心の命令である』とかいろ／＼答も出ませうが『道德が自己の本眞劍の生活の何處に位してゐるか』とかう考へるならば或る場合には衣であるかもしれぬ、或場合には一寸貼つた膏藥位、或場合には帽子の様に、又帽子の先に一寸ついてゐる飾の様なものにすぎぬものかもしれませぬ。かうして見ると實に危険あぶなしい人だらけでせう。我々はよくお互に道德上の煩悶を語り合ひます。殊に學問をした青年男女からよくかゝる話を聞くのですが、其の發表の仕方は何れにせよ。極く奥の奥の一番の根本問題は『我々は何故道德を守らねばならぬか?』何故道德が眞理

であるか』と云ふ事に落ちて来る。つまり根底に此の問題の解決に苦しんでゐる所へ色々反對の思想が無遠慮に彼等青年を襲ふ。そこで例へば一人の先輩が何んとか説明し解決を與へるとしても、其時は兎に角として、この青年が他日一層頭の進んだ先輩に出會へば又違つた『道德の解釋』をうける。かくして常にぐらつくのでありませう。一體道德はいくら説明がついても立派に解釋してもそれは頭の仕事、意識の上の事で教へられた事と實際の生活との間に結び付きがなければ何の役にもたへないことです。

扱てこれらの結論解決として私はまた初めの問題に歸りますが、他人の好意を感受すると云ふ事に於ても其好意の結果を感ずる事は先づ容易な事です。一飯をめぐまれたとか或人から幸福をうけたとしてそれを後々迄も忘れないと云ふ事は誰でも出来ませう。しかし好意其のものを本當に感ずる事、こゝになると余程我々の心は鈍くなつてゐ

ると思ふのです。そこで『人の好意を感ずる』と言ふ事を押しひろめて考へると、道德と云ふ事は今、この言葉を出してゐるから、今この行をしてゐるから、それだから道德であると云ふのでなく、其の人の生活全體が道德になつて居ると云ふ事になりませう。云ひかへればあの人が何日の何時に私にかく／＼の事をして呉れたから私はあの人の好意を感ずるとか、誰か私に好意をもつて居てくれるのではないか、何處かに私のためにしてくれる人が居はしないかと探しまはると云ふ様な性質のものではない、丁度春が來ると何處の水でも暖かくなるのを感じ得る様なものです。特に意識して『春が來た、何處の水は暖くなつたであらうが此處のは暖くならぬに違ひない』など、えりごのみをするものではありません。たゞ常住始終一種の好意に感ずる性能を持つて居るので、これはかの物理學者がすべての物體をわけて電氣の良導體、不良導體の二つにして居るのに例へて、良導體の様

なものだといへませう。即ち金屬は電氣が來て之に感じたその時だけが良導體で電氣が來ない時はそうでないとは云はない。電氣が來ても來なくても『金屬は電氣の良導體である』と物理學者はきめて居るのです。之と同じく人間も好意の良導體となれば今好意をうけてゐるから、ゐないからと云つて其性能のかはるものではない。又其の金屬は電氣が通つてゐても通つてゐなくとも何とも思つて居ないでせう。もし鐵に『もし〜鐵さん今電氣が通つてゐますがどんなにお感じですか』ときいたなら、或は『少し緊張した様です』とか『何だか、くすぐつたい様です』とか答へるかもしれないが、まあ恐らく何とも意識して居ないでせう。

扱人間は、もし、好意の不良導體から良導體に變つた時どうであらうか。必ず其内の生活に變化を來すと思ふ。良導體にかはれば實に好意をいつも受けてゐる様な感を持つ様になる。特に何日の何時にこれ〜の事をしてもらつたと云ふのでな

くて、何となく嬉し、い、有りがたいと云ふ感じ、それが其の人の基調になる、生活の基調になる。雪を見て、水を見て、たゞ何となくうれしい。取り敢へず好意をうけて居る様な氣分になる。それが其の人の性格の基本となるでせう。私はこの事なしでは眞の道德生活と云ふものを考へられないのであります。道德は道德として平常は棚にあげておいて扱今日は病人の所へ見舞に行くのだが何を持つて行かうか。そうだ親切がよからうと其時に『親切』を棚から下して風呂敷に包む。今日は悪友の所へ行くのであるから、柔順ではいけない、勇氣を持つて行かう。こんな風ではとても道德生活に落付く筈がありません。必要に應じて一々準備するのになしに、全く空手からででブラリと出て行つて、さてある所に行けば勇氣となり、或所に行けば親切になると云ふ其根本となるものがある筈と思ふ。この根本を私は『好意に感ずる性質』と云ふ事にあると申したいのです。たゞ何となく絶

えず嬉しいと云ふ氣持をもつて居たい。私は先月來、可成長く病床にありました時其間に特に親鸞聖人の事を考へてゐましたが、親鸞の宗教的の根本信念も此處にあると思ひます。淨土に行けると云ふ事は道德的の行爲によるのだといふ聖道淨土の信仰に對して親鸞のは全然信仰往生を唱へました。親鸞の先生の法然聖人は道德に由つて救はれる事を非として念佛に由つて救はれると云ふ事を云ひ出しましたのを親鸞は更に信仰往生を唱へたのです。

私は常に親鸞が妻帶肉食した事を偉いと思つて居ります。今日の時代ならば何の不思議もありません、あの時代に、殊に法然の一番弟子の身が妻帶し、肉食し、子供もあり家庭も持ち、毎日寺に通ふたと云ふ事は大變な事であつたに違ひない。實に親鸞はよく思ひ切つて生活の形に由つて救はれる事を非として、信仰往生に進んだのであります。つまり道德から今一步すゝんで何處かに

歸着點を見出したといつた時に親鸞は自力から純他力に移つたのであります。他力とは何であるか、即ち人間が道德をまもると云ふ誇りまでもすてるところで、全くの他力に由つて信仰往生に入ると云ふ事は實に他力の極と云へませう。さて之れを主觀的に見ればつまり嬉しい、有り難いと云ふ事に歸着するものではありませんまいか。

かゝる事を考へながら病中私は親鸞の書物を枕元においてあれこれと讀みあさりましたが、要するに今日の我々の上に起る種々の問題は此處に根庭を置くと思ひます。我々は果して嬉し、さの良導體であるか、人の好意に對する嬉しさと感謝性を持つて居るか、これを理窟の上で押しつめて行けば宇宙に對し、自然に對し、神に對する感謝の心となりませうが、其處迄進まず、人間の問題はやはり人間の間だけで考へるとして、人間はやはり人間の間で生活するのですから、たとひ如何に神の有難さを感じても人間の好意をうけられず感

受出来ない人は、私は淋しい人、氣の毒な人であると云ひたい。兎に角私は人間世界の好意を感じ得る人となりたい。又子供をそう育てたいと希ふのであります。

しからは實際上どうすれば子供をこの希望にかなう様に育て得るか。こゝになるとまた餘程注意を要します。たゞ感傷的センチメンタルになつては困る。何でもかでも謝するのがよいと云つて之を意識の上ののぼらせてはならぬ。感謝も意識してしまへば私が初めに他の道徳意識について申しましたのと全く同じ結果になつてしまひます。『宅の子は幼稚園へ行く様になつてからお辭儀を五十度する様になつた』とか『此頃は、いやに黄色い聲を出して口に數度か嬉しいといひます』とか又は『身振りを盛にして有難がる』とか云ふ様になつては、すでに出發點に於て誤つて居るのであります。實に一步をあやまれば意識なしに、もたせたいと思ふ此の感謝性も、うれしが、る性も反つていやに感傷性センチメンタルなもの

になしやすいで充分之は注意しなければなりません。とかく感謝を故意わざとらしくさせるのでなく矢張り無意識の中に其本來の美しい性を持たせたい。「好意の感受性」を意識させる位ならば寧ろ正直とか親切とか云ふ徳目を意識させた方が淡白で誤りが少ないと思ふ。それ故、子供にこの望む様な性格を眞實に與へるにはどうすればよいかと云ふ事が問題になります。子供に向つて、ありがたがるお稽古や御禮の練習とか「感謝ごっこ」などをさせてはそれこそ反つてひどい害を來させよう。

そこで先づ私の考へて居る所を申しますと、第一に子供が好意を表する時に——たとひそれが如何に小さな事であるにせよ、また其結果は反つて此方には迷惑な事になるにしても——取敢へず、敏感にこれを受取つてやりたいと云ふ事であります。よく『子供が質問する時には一々親切に答へてやらなければならぬ』と申しますが、それより

も尙必要のこととして、子供の好意は一つ残らず受取つてやりたい。質問に一度答へなくても子供はまた其智識を得る機會はありませう。しかし好意は一つ之をにがして受取らずにつきてはなせばもうとりかへしがつかない。それだけ子供のこの感受性をそこなふものです。さりとて其受け取り方はどうするかは問題で、たゞ『やあよく好意を表はした、うれしい』などと涙を振つても困ります。形にあらはすと云ふ事は必然の事ではない、子供に對していつも好意を受けてやりたいと云ふ心さへあれば其處に無言の中に眼の光にも顔の色にも子供に満足をかへす事は出来ませう。たゞ子供は好意を表はす時その發表の仕方が間違ふ事があります。例へばお母さんがお仕事をしながらしきりに銚を探して居る、側に居た子供は之を見て「母さんは何か探していらつしやる、きつと物尺が御入用なのだらう」と思つて物尺をもつて行く。すると母親は今銚がなくて氣がイラ／＼して居る所と

て「何だね物尺ぢやない、銚がいるのぢやないか」と怒鳴る。この時子供のやさしい心はもぎ折られて「しくぢつたな」と思つて引込んでしまふ。もし子供が理屈屋ならば「何だ間違ひは間違ひ、好意は好意ぢやないか」と云ふ所でせうが子供はそんな事は云はない。だまつて引込んでしまふ。とかく大人の生活は結果が主となつてゐて好意そのものを感しない。世の中が忙しくなればなる程かゝる傾向になりませう。私共は先づ子供のやさしい心を受取つてやりたい。随分迷惑な事でも取敢へず其好意を受取りたい。大人同士の間ですと義理もあるので外面的にあまり好意をしりぞけない様には見せかけて居りますが、強者が弱者に對した時即ち大人が子供に對し、或は大人の間でも主人が召使に對した時などは、好意をすげなく退けると云ふ事を平氣でするのであります。これがどれ位子供の「好意の感受性」の發達を妨げるかわかりませぬ。子供が好意を發表する度に受取られる事は彼

等にとつてどれ位愉快な事せう。いつも誰かゞ
すぐ受けてくれると云ふ事は實に彼等を幸福にし
ます。一體に神經組織の纖弱な彼等子供にとつて
受け入れられざる好意がどれ位彼等を害するかわ
かりません。彼等の胸に一つの空虚をつくつてし
まふ。これが子供をすぐに悪くするとは行かずと
も害する事は慥です。此點は母親も保母も餘程注
意しなければならぬと思ひます。勿論我々人間
の事ですから何時も子供を満足させて置く事は出
來ないでせう。時には彼等を失望もさせませうが
外の事で子供を失望させる——例へば充分玩具を
買つてやられないとか、忙しくて質問に答へてゐ
られないなど——事は止むを得ないのですが、し
かし彼等がポツリ／＼と時々表はして來る好意を
退けて、それで彼等を失望させる事はあつてはな
りません。これは母親自身、また保母自身が細心の
注意をはらはなければならぬ事で「今忙しいか
ら、面倒くさいから、腹が立つて居るから好意な

どうけてゐられぬ」と云ふ事は許されません。忙
しければ忙しいなりに子供的好意を受け取る方
法はありませう、形にあらはさずとも充分受け取
り得ることは出来るものです。

今一つの方法的實際問題は「容赦」と云ふ事であ
ります。一體これまでよく云はれて居る子供の教
育方法としては（一）訓戒する事、（二）罰する事、
（三）賞讃する事の三つが主なるものになつて居り
ます。近頃また此問題をやかましく云つて賞を與
へるのは危険であるとか罰はいけなとか種々申
しますが要はやはり此の三つであります。しかし
私は我々の子供に對する態度の中に今一つもつと
大切な事があると思ふ。それは容赦と云ふ事です。
此迄とても容赦は考へられないではありませんが
それは罰の結末としてしか思はれてゐない。「容
赦」自身の教育効果はあまり考へられてゐません。
しかし私は罰の結末でなしの「容赦」が子供の心に
如何に響くかを思はず居られません。叱つたあ

とに赦されても勿論子供は嬉しいと思ふでせう、
赦されないよりは嬉しいに違ひない。しかしこれ
は赦された事が嬉しいよりも罰を免れた事が嬉し
いので、丁度借りた金を返して其證文を破つた時
の嬉しさと同じでせう。赦されて其時のがれ得る
苦しさは、それは罰の苦しさであります。どうせ赦
すなら初めから罰なしに赦すことは出来ずまい
か。先づ罰を與へて、『今から三分たつたら赦して
やるぞ、どうせ赦すのだから虐め序でにとしく
虐めて置かう、そして成るだけ赦しの有難さを感じ
させ様』と云ふ方法がなかく、多いのでありま
す。けれども「容赦」の教育効果は罰の結末として
でなしに、罰なしに初めから赦してやると云ふ所
に真にあるのです。例へば遊戯室で子供が遊んで
ゐる、ふとピアノが弾きたくなつて弾いた。丁度其
處へ先生が何氣なしにはいつて來た、子供はハッ
と思つてピアノをひくのをやめて先生を見る。「子
供はピアノをひいてはいけないもの」と云ふ事を

その子はよく承知して居るのであります。この時
の子供の表情は實にみにくいもので、叱り手が來
たと思つて先生を見るのでせう。この時先生が「い
けないねえ、今に赦してはやるが、しかし、いけな
い事をした」と云はずに黙つてニコリと初めから
赦してやる。この時子供はポカリと間が抜けて其
處に美しいあるものが湧き出る。叱られると思つ
て緊張してゐた心がフットゆるむときに、其處に
何とも云へぬ美しさが湧き出るのでせう。また例
令ば子供が鉄を弄んでゐる。「切つてはいけない」
と云ふ事は知つてゐたがフット着物を切つた。
この時に子供は其の切れた所を見つめないで、す
ぐ母さんの方を見つめる。其母を見ると云ふ心は
實に可愛相なもので、もう、この心持だけで、何に
も云はなくても澤山なのです。この時に母親が「だ
から云はない事ぢやない」などと云はずに「オヤ、
切つたの」と、せめてたゞこれだけを云つて「サ
ア縫つてあげませう」と云へば其時にこの子供の

心にはどんな美しいものが現はれて來るでせう。

罰があるから「容赦」があると云ふのはこれは古のユダヤ思想です釋迦の生れる前の思想です。初めから容赦、途中も容赦、終りも容赦でありたい。容赦の中に生きて漂ふて居る感こそ、實にそこに大きな教育効果があるのです。悪い事をして罰なしに許された其感じは實に柔かいものであります。この經驗を子供に幾度も與へると子供は何時となく嬉しい感じを性格にして、先程から申上てゐる所の私の望む氣持に子供を近づける事が出來ませう。

餘りに道德教育に熱心な人の間に育てられると人間はいぢけてしまふ。此處にも道德が待ち伏せては居らぬか彼方からは道德が追ひかけては來ぬかと何時もビク／＼して少しものんびりとした所がなくなつてしまふ。凡べての人が自分に好意をもうて呉れるもの、容赦の世界に漂ひ包まれて居るものと云ふ事を意識せず、自然に子供の性格の

中に與へられれば子供は實にのんびりと育てて行きませう。『かく育てたしと思ふこと』の一つが此處にあるので私は自分としてやつと今此處に落付いて來たのであります。扱斯くの如く何となくうれしい、明るい氣持をもつて育てて行く子供の行末は果してどうなるでありませうか。必ずしもこの好意の感受性の有無で出世の道や社會的地位がきめられるわけでありませんから謂ゆる成功者になるか否かは請合ひませんが、幸福な人間になる事は確です。もとより好意と容赦の間に保護されてゐる世界から此の荒い社會に乗り出せば、到る所に好意を退け罰をあたへる多くの敵が狽狽して居るでありませう。しかしその人の生活の根底にすでに好意の感受性が養はれて居れば失望しながらも、一寸不平は起りながらもうれしさの感じは消えるものではありません。實に私はこの育て方が人を幸福にする根本であると思ひます。今日は後に面白いまた有益なおもちや繪の話がございますから私の話はこれで止めて置きます。(筆記)

ヲドレ・ヲドレ

(二 調 = 拍 子)

1. 3 5 | 3. 5 1̇ | 6. 1̇ 6. 4 | 3. 5 5 0 |
ヲ ド レ ヲ ド レ カ ゼ フ ク マ マ ニ

6. 5 4 3 | 6. 5 5 | 4. 6 5 4 | 3. 5 5 0 |
キ ノ ハ モ オ ド レ コ ト リ モ オ ド レ

5 6 5 4 3 3 | 5. 2 2 0 | 5 6 5 4 3 3 |
ア ツ チ ヘ イ ツ テ ヒ ラ ヒ ラ コ ツ チ ヘ イ ツ テ

2. 5 5 0 | 5 6 5 4 3 3 | 5. 5 1̇ 0 |
ヒ ラ ヒ ラ ア ツ チ ヘ イ ツ テ ヒ ラ ヒ ラ

踊れ 〳

これは先に十二月號に掲載致しましたが其の節多少の誤植
がありましたから此の際此處に訂正致します

踊れ 〳 風吹くまゝに

木の葉も踊れ 小鳥も踊れ

あつちへ行つて ひら〳

こつちへ行つて ひら〳

あつちへ行つて ひら〳

踊れ 〳 風吹くまゝに

帽子も踊れ シヨウルも踊れ

あつち行つて くる〳

こつちへ行つて くる〳

あつちへ行つて くる〳

踊れ 〳 風吹くまゝに

小犬も踊れ 小供も踊れ

あつちへ行つて は〳

こつちへ行つて は〳

あつちへ行つて は〳

表 情 遊 戯

麴町小學校長 土 川 五 郎

踊れく

一、オドレ 左足ヲ左へ、右足ヲアゲテ跳躍一回、

此ノ時左手ヲ左側上ニ輕クアグ

オドレ 右ニテ同シ動作ヲナス。右手ヲ右側上

ニアグ

カゼフク。左へ跳躍前ニ同シ、右手ヲ右へ伸バ

シ掌ヲ下ニシ 左手ヲ之レニ添へ、體前へ稍

底ク、シツ、左へ運ブ、此ノ時左手伸ビテ右

手ヲ添フ、極メテ輕ロク

マムニ。前ノ如クシテ兩手ヲ右方へ返ス、同時

ニ右足ニテ跳躍ス

木ノ。兩手ヲ開キタルマ、頭上ニ掌ヲ向キ合セ

ハモ。少シク兩手ヲ開ク様ニシテ掌ヲ側方ニ向

ク(手頸ヲ急回轉ス)

オド。尙兩手ヲ開クト同時ニ掌ヲ向キ合ス

レ。兩手ハ全ク左右ニ開キ掌ヲ下ニ向ク、(「木

ノハ」ヨリ次第二手頸ヲ回轉シツ、左右肩ト

水平ニ開ク)

コトリモオドレ。兩膝ノ屈伸ヲナシツ、左右ニ

開キタル兩手ヲ上下シ鳥ノ様ヲナス

アツチヘイツテ。右向キナシ四歩輕キ小走リヲ

ナシ内方ニ向ク

ヒラヒラ。兩手ヲ開キタルマ、前方斜上ニアゲ

テ掌ヲ前後ニ手頸ヲ回轉スルコト三回、足柏

子三回

コツチヘイツテ。左向ヲナシ前ト同シク走り内

方ニ向ク

ヒラヒラ。前ニ同ジ

アツチヘイツテ。右向ヲナシ前ト同シクス

ヒラヒラ。前ニ同シクシ最後ノラニテ兩手ヲ頭

上ニアグ

ニ、オドレ……カゼフクマムニ。迄ハ同シ

帽子モオドレ。兩手ヲ體前眞直ニ伸バシ兩手ヲ

丸ク間ヲ一尺程離シテ掌ヲ向キ合セ、帽子モ

ヨリ左右ノ手ヲ交互ニ上下ニ少シク動カス

(少シク丸ク)コト四回

シヨールモオドレ。兩手ヲ其儘開キ共ニ左右ニ

振ルコト四回

アツチヘイツテ。右向ニテ駈足ス

クルクル。内方ニ向キ兩手ヲ體前ニテカヒグリ

ノ如ク(手ハ握ラズ)廻ハス

コツチヘイツテクルクル。左向駈足ト手ノ廻轉

前ニ同シ

アツチヘイツテクルクル。前ニ同シ 終リノハ

ニテ舉手ス

三、オドレ……カゼフクマムニ。迄ハ同シ

コイヌモ。兩手ヲ掌ヲ前ニシテ兩耳ノ後ニオク

(此時全生躊躇ス)

オドレ。體前稍左方ニテ左掌ヲ上ニシ右掌ニテ

柏手三回

コドモム。ニテ直立ス

オドレ。足柏子三回

アツチヘイツテ。右向駈足

ハムム。内面ヲ向キ發聲毎ニ極メテ僅カニ頭ヲ

前ニ傾ク

コツチヘイツテハハハ。左向駈走前ニ同シ

アツチヘイツテハハハ。前ニ同シ 終リノハニ

テ舉手ス

○二月の常集會

日本幼稚園協會常集會は既報の如く、去る二月八日午後一時半から東京女子高等師範學校附屬幼稚園の遊嬉室で開かれました。

丁度この日は朝から粉雪が降り初めて開會の頃には既に三四寸も積み、吹雪にもなりましたが來會者は室に満ちました。倉橋主幹の「斯く育てたしと思ふこと」と云ふお話も横田學士の『おもちゃ繪』のお話も誠に興味ふかく、聴衆は日の暮るゝも忘れて居りました。おもちゃ繪は保育室三つを通してまだまだ列びきらぬ程澤山に陳列され、飽かず眺めて雪の日の早く暮れるのを惜しみました。

神戸幼稚園の新しき試みの一端(一)

神戸幼稚園保母

志

賀

末

私共の園では昨年九月より新らしき試みを實

施致しまして今日まで日々研究的に此の意味深き
幼児保育の爲めに何等かの貢献をなさんとして今
なほ繼續しつつ種々の経験を重ね絶えず努力いた
して居りますが日も浅くこれといふ功績もござい
ませんけれども此處に至りし動機、方法乃至は今
日までの経験の一端を極めて具體的に申上て見度
いと存じます。

私共は三年前に其時分の一齊保育に不満を感じ
ましてどんな風にしたならば子供も楽しみ又私共
も心に満足が出来るかと思ひ苦心焦慮の末フト實際生
活を澤山に保育の中に取り入れることを思ひつき
ました其一番初めに試みたのは澱粉の製造であり
ました播鉢とわさびおろしと馬鈴薯はおもしろく
子供に用ひられました製品は子供にもお客様にも

御馳走されました。

次に思ひ付いたのは染物でした、いろ／＼の紙を
試みて後、改良半紙のよいのが適當であると判り
ましたので其紙を正方形や三角形にたゝみ角やふ
ちを染料につけて絞り染をさせました、割合に手
を汚さないで結果はきれいに出来上り且其染めた
ものを古新聞紙にのせて日光に乾かすときの子供
の嬉しそうな態度は私共を満足させました、已に
乾いたらはその絞りの周圍に色鉛筆で模様をかく
ことは幼児の發明でありました、製品は保管され
て人形の着物やおふとんや摺み紙やいろ／＼に用
ひられました。

次に思ひ付いたのは種々の玩具を製造すること
でした、まりや、糸巻や、はかり、やが數多く工
夫されました。

次に尤も幼児の喜ぶのは大工仕事でしたこれにも澤山の工夫がされました第一に自分の辨當の札や女の子には機織の道具や下駄や机や飛行機、軍艦、シグナル、梯子などは主なるものでした。

夫からお洗濯やはりもの、これは大分幼稚園の洗濯賃を節約する事が出来る程夏の間は子供に喜ばれました。

かやうな種々の仕事を幼児にさせるためには種々の方法が考へられました。

第一法は分團法でありました第一組の子供を八人乃至十人位の一團として四ツ位の團をつくり毎日其中の一團丈を目的として凡ての注意を拂ひ他の三團は全く幼児の自由に任せました、後には一團を四人位に減じても見ました自由を得た幼児は庭で遊んだり晝をかいたり積木をしたり各種の製作、まゝごと、お唱歌、粘土細工などをして居りました、何を申すも幼児の数が多くて一人の保母の手に餘る處からいろ／＼の苦心が出来るのであ

ります。

然るにこれ丈ではどうも保母の心が満足しませんでしたので第二法を考へました。

それは一組の子供の智力検査をして其缺點のある處を記載しておき、なほ、言語、舉動等矯正を要することは記載して一覽表をつくり毎日二三人づゝを矯正指導して標準まで進まするとに致しましたしかして其他の兒童は全く自由に遊ばせたりまた、一齊に話をしたり歌はせたり好む仕事をさせたり致しましたがこれも充分に満足することが出来ませんでした、斯くて滿二年は過ぎ去りました去年の夏休中には私共は九月から必、革新したる意味ある保育をせねばならぬと決心しました。

その主要なることは智育德育もさることながら幼児教育の第一義は體育にあること勿論なる故に今度はこの目的の爲に猛進して見やうと決心致しました、しかし前記の方法を全然採用せぬ譯にてはなく目的の置き處をかへたまでのことでありま

す。

其の革新的試みといふのは従來行つて居た幼児の年齢別に依る組の編成を廢して彼等の體格を基本として全然新らしき組を組織したことでございます斯く申しました丈では極めて單調な事實に過ぎませぬが此の事實の裡に存る眞の意味を解して此の試みを聞いて貰ふといふことは私共の立場として最も要求する處でございます。

扨て組を分けますに幼児の體格を標準とするとな數の上から不均等な組の出來ないかと云ふ恐れもございましたが分類して見るとはからずも自ら人數の割合が都合よくまいりました、中でも弱の組は幼児の數最も少なく廿九人でございますことは園兒の全體に對する身體の薄弱なる者の少數なこと、今一つは最も細心の注意を要する此の組の今後の保育方に利益なることでございます。其の六つの組は大體左の様なものになりました。

強組(紅葉の組) 年齢大にして身體強健なる

もの。

大中組(菊の組) 年齢大にして體格中等の者。

小中組(桔梗の組) 年齢少にして體格中等。

小強組(櫻の組) 年齢少にして體格強健なる者

大小中組(梅の組) 年齢は大小二様にして體格

中等なる者と九月より新たに入園したる幼児

弱組(撫子の組) 年齢に差別なく概して身體

薄弱なる者と特殊の疾病を有する者等。

右各組に子供の感じを害はぬためかつは便宜上花の名稱を附けました。

之を分けるには幸私共の處では毎月一回園醫について體格検査を行ひますから其の結果の示す處を受持保母の實際の觀察とそれに加ふるに幼兒の體量、身長、胸圍を正常の標準に参照したものでございます。故に強組は體格強健にして特殊の疾患なくかつ正常の標準に適ひたるものにて弱組はすべて之れに反したるもの、故に體格は弱にして神經過敏、過度の腺病質、輕度の心臟病、脱腸、比較的呼

吸器の弱きもの等であります。これ等の組を受持つ保母は自信ある自己選舉と相互の間に於ける人選との方法を用ひて決めました處が之れもはからず適所に適任の結果となりました。そこで各保母は思ひ／＼に幼兒保導の根本的意義として時代の思潮を鑑み自己の經驗に照して各々獨特の方法に依りて最も確信ある處を試みました。故に各組各々最も適當と信する案を立てこれに依りて日々の保育に當るのでございます。今弱組の保育についての大體の意味とその内容の概略を示せば次の様なものでございます。

一、幼兒の知識的方面より寧ろ全然彼等の身體方面に留意して其の健康、發達を計ること。

此の目的を達するためには左の様な具體的案を採つた。

一、雨天の外は室内保育を避けて日光と空氣の充分なる庭園を之れに當つ。

二、幼兒の状態を顧み出来る丈多く郊外遠足を

試みることに。

これは一週間に四度乃至五度行ふ。

幼兒自身も最もこの遠足をよろこぶ。

三、特殊的疾病を有する幼兒に對しては十二分の注意を拂ひ彼等に適する個人的運動を研究して課すること。

四、細心の注意を持つて幼兒の日々の身體の狀態并に精神狀態、彼等の要求―選擇する玩具などを觀察して事實を記載すること。

五、特に家庭との連絡を密接にして幼兒の體育方面に關する細心の注意を與へ共に／＼に彼等の健康増進に努むること。(以下次號)

古葉書細工をお勧め

したい

大阪御津幼稚園

小山 ヒデ

製作尊重が或機會に依つて高頂に達して來た事と其材料を重に粘土に採つて居らるゝ事は誠に結構な事と存じますが若し他に幾分の價値を認め得る材料が有るならば試みても差支への無い事では有りませうか。全體、保育が要求致します家庭との連絡は保護者會とか家庭訪問とか種々の方法が御座いませうが、要は、教育者と家庭の者とが其主義を等しく其方法を共にして相携へて進まうと云ふに外ならぬと存じます。其立ち場から申しますならば、比較的奇麗好きな日本の家庭に粘土を充分歓迎さすには今少し年月を必要とし他に何か無造作な者で家庭に這入り易い材料があれば混じて使つて見ても徒勞では無いで有らうと存じます。

この様に申上ますと何か創作的な新しい試みの

様で御座いますが、材料が古葉書だけに極古いもので唯試みて面白く只比較的價値あるものと感じましたから未だ使つていらしやらない御園にお勧めいたしますだけで御座います。

さて弊園で試み始めましたのが三年前、初は平面の者を主として作つて居りましたが次第に立體となり糊を乞ひ色紙其他種々者を要求し複雑になつて參りました。其内弊園の一保姆が非常に是れに興味を持ち其發達の順序又同名稱で其組立ての相違其着眼の精粗などを其個性に連絡して調べ出しましたが、研究其自身は未だ纏まつて何物をも得ませんが、其れが爲非常に幼兒の興味を引きまして次第に着想が廣く且觀察が密になり、おるがん、机、人形、火鉢などの手近なものは極初步で飛行機、汽車、電車、自動車など子供に有り勝ちの發表は申すに及ばず雀の握手、毛人形、桃太郎、鶏などお伽噺や玩具からの者もあり、遂には馬小屋競馬、汽車が今や墜道を抜けようとして居る所など

の様な大仕掛のものを作る様になつて來ました。

中にも面白く見られるのは同じ梯子の作品でも兩端を剪り中央部を一面にして繪で段を現すもの、細い線に剪り段を一々横木につけるもの、又段を剪抜いて作るものなど千差萬別の工夫は彼等の創作能力を充分見る事が出來ると一寸云つて見たい様な氣が致します。又一人の子供の發達についても軍艦なれば初めは唯平面の船形と檣位であるが次は立體になるものもあり、檣二本になるものもあり又大砲が加へらるゝもあり、又初めから餘り高尚な理想を持ち過ぎて實行が其に伴はず、よい加減な名をつけます小才子もあり、又工夫に工夫を凝し、あゝでも無い、こうでも無いと長時間を費しても屈せぬ熱中家もあります。殊に特筆いたしたいのは其製作中の全體の態度の一生懸命さで御座います、あの輝いた眼、あの熱を持つ曆の手、あの無我な面ざし、見る私共に名人の名作を見る様な一種の敬虔心を起さゝずに置きません。

兎に角一度試みてご覧遊せ、材料は古葉書(紙質適當)時には白紙、並に日本紙(反古にてもよし)、糊、色紙其他で方法としては別に變つた事はありませんが、例の八百屋、動物園でもよろしい、唯子供の思ふ儘にと云ふよりも廣い範圍をきめる方が容易の様で御座います。そして初めは二三回先生が模範を示し其後は共に熱心に製作なさいますと幼兒も、ずん／＼考へて遂に容易に得られる材料で御座いますから家庭に居る時でも熱心に致す様になります。

以上珍らしくも無い事でござ座いますが粘土に比し色を現はす事と微細な所で製り得る事と家庭で容易に出來得ると云ふ點に見るべき所があると存じましたのと弊園兒家庭へ勸め非常に喜ばれて居ります所から大切な紙面をお貸り致しまして記載いたしました。

琴平だより

琴平幼稚園 久住もと

これは琴平幼稚園の久住姉より倉橋主幹に宛てたる私信ですが如何にも幼稚園の御様子が眼の當りに見る如く面白く拜見されますので特に乞ふて本誌に發表する事に致しました、尙各地の幼稚園の諸姉がかく有りの儘の御様子を御知らせ下さい本誌上にそれを御紹介致す様になりましたならお互にどんなに楽しく且有益な事であろうと存じます、何卒皆様が奮つて御遠慮なくこの種の御通信を本會宛にお送り下さる事を希望いたします、本誌を通じて各地幼稚園が其情況を語り合ひ親しみをます事が幾分なりとも出来ましたら誠に幸であります。(編輯係)

拜啓

また御無沙汰致しました、春とは名のみで御寒さ殿しう御座います、先生初め皆様御變りは御座いませんか、當園一同無事に働いて居ますから御安神下さいませ、

當琴平は縣下でも山に近い丈に高松其他海岸線の市街地から見ますと確に裕一枚の差があると申程に寒さが強う御座います、

自然降雪も山嵐も多う御座いまして一寸位の雪は始終で御座います、其上本園は敷地の整理が未済ですから一寸した雨にも雪にも地面が容易に干きませず、其内に又降ると謂ふ風で幼児の足元では懸念なく飛んだり走つたりが不都合ですから勢ひ室内の遊びに片寄る風になります、快晴の時は山登り、公園巡りと連れませうけれど此頃ではそれも出来兼ねます、あの狭隘な疊敷の玩具室、家庭で申す

お茶の間が此頃どんなに賑ひます事か、其室から私共保母に如何斗り教訓を與へられる事でしょうか、其生活振りを御想像下さい、昨年迄は、當園唯一の廣い部屋の中にヤグラ付の大圍爐裏を掘りまして朝登園した者は一度カシカン流手足を暖めて夫れから遊びに移つてゐましたが、御承知の通唯一つの廣い部屋の真中に障害がありましては何を致すにも不都合で亦其割子供、も寄り付うと致しませぬから、本年は普通の火鉢(實は醫者の玄關に置く様な大火鉢と存じましたが財政が許しませんでした)三四個を用意致して例のお茶の間の所々に配置して幼児の登園を待つて居ます。

マントにぐるまつて赤い手をして先生お早うと御辨當の紐が指に喰ひ入る様に成つてまゐりませぬ、時にはぬかるみで足袋も下駄も泥まみれにしてまゐる者もありませぬ、雑巾とバケツは何日の日にも用意して是等の始末を致します、携帶品の始末を濟ますと一番に疊のお部屋にまゐりまして凍傷豫防の爲めにカンブラ油を塗つて貰ひそして其火鉢に集ります、暫時は互に途中の出来事やら昨晩あつた家庭の話やらに花が咲きます中には洗つて貰つた自分の足袋を火鉢にかざしつゝ話して居ます、

暫く暖ると圍テーブルの上に、獨樂、積木、石盤、繪本と色々の物が持ち出されて盛に遊びが始まります、最初三四個位の火鉢ではと覺束なく存じましたのは大人の考でして子供は決して幾時迄も火鉢の番は致して居りませぬ、新陳代謝は都合よく行はれて少しも不都合を感じませぬ、

大體出揃ひますと、保母も仲間にはいります、先生のお蒲團はあれこれと競つて迎へて呉れます、すると先生セツセツを致しませぬ(手の遊)と發議する者があると、ソウ〜と賛成する者が

出来てやがて火鉢を中にして初まります、先生は歌も知りませんから教へて下さいと親切に教へて貰つて此頃では三四種變つたのを覚えましたが、暫くすると夫れも飽きます頃に、歌を唱ひまじよふかと問題を出すと、エ、と賛成して集る者、立つて玩具に移る者廣い遊戯室に馳け出す者等一寸動搖がありまして、先生から／＼の要求で何か一つ獨唱すると私もよせて下さい、僕もと亦加入者などがあつて順々と好むものを尤も眞面目に、歌ふ者も聴く者も本眞剣ですそれは實におかしい位です、是れに依て歌詞の間違つたのや音程の各兒に就ての差異やらがどんなに判つた事でしょうふ、

先生順々とお話するのにしましよ、と云へば常に無口の子供が面白い話を高聲に仕出して驚かされたり、

お線香廻しに言葉の尻取りイヌ、カウメシト(ヌスビト)ですよと訂正して容易に此種の矯正が出来、時に果物の名、花の名、魚の名、獸の名、野菜の名として常識を作り、お半は女、長衛門は男などにて言語聽覺を敏捷にし羅漢遊びなどにて約束を守り、亦英勇の名などしては偉人の話を要求し熱心に聴く事もあり其多様多面に純自然生活の中に求むる事の豊富に與ふる事の容易にして愉快なる其間常に苦しみ個性の觀察、個人の訓練はいとも容易に行はれて四角い氣分で大集團の中で子供も氣張り自分等も氣張つて苦しむで居たのがおかしくなり、

順番に玩具部屋、遊戯室、設定室と保母は立別れて相手に成りません、設定室では時に、三四人或は個人等分團に致す時もあり、開放して誰でも入れる時もあります、開放された、摺み紙厚紙細工など

には保母何にも謂はずセツセと作業して居るのに、釣り込まれて二人寄三人集つて先生私にもさせて下さいと小さい職工が熱心に働いて居ます、遊戯室には、まりを付く者、陣取遊びをする者、時におせりこ、せりこ、せつたら暖いと太い身體を押つぶされる時もあります、スキップを弾け馳け足を弾けななどと樂器の要求される時もあります、亦時には大積木、腰掛などが利用排列されて、大きな病院が出来(怪我して居る方は入院して下さい、大切に上げてます)と玩具室の方へ(負傷人形の入院を勧誘に来る事もあります、そんな時には、お見舞に行きまじよかと、一寸暗示をするとサーお見舞品の工夫で一活動ですこんな風にして心に年を寄せず幸福に暮して居ます、

○保育實習科生徒募集

東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集に關する規則は大正八年度には多少規則に改正があつた様です。修學年限は本學年度より一ヶ年(四月より翌三月に至る)となり又推薦の府縣も全國を二分して募集地方を隔年に交替する事に定めたさうです、尙本年度の募集地方は左の如くの由。

朝鮮、關東州、樺太、東京府、京都府、兵庫縣、長崎縣、埼玉縣、群馬縣、栃木縣、三重縣、静岡縣、滋賀縣、長野縣、福島縣、青森縣、秋田縣、石川縣、鳥取縣、岡山縣、山口縣、徳島縣、愛媛縣、福岡縣、佐賀縣、宮崎縣 (以上)

詳細な事は各府縣廳に付き照合せられたしとの事。

三月の園藝

東京女子高等
師範學校教授

有川ひさる

木も草も眠つた冬の帳は静かである、静かな帳
がやおら揺らいで、幼子の微な動めきを見初めた
時の母の喜び！此喜びは春の喜び！

『春が来た、春が来た』子供の唱歌を聞いても、
ちつとしてゐられぬ心地になる。

小供には花も観せたいが、實も收らせたい、場
所がなければ花壇を少々割いてなりと菜園をつく
りたいと思ふ。此處で栽培の容易な、收量の多い
しかも收獲のたのしみな、蔬菜の二三種を試みた
い、勿論目的は他の大きな兒童とはちがひ、作物
の名を教へるとか作り方を説明する爲でなく、唯
その收獲や、運搬の勞苦と、喜びとを味はせたい
のにある。それで今月には春季に蒔く蔬菜、草花
について述べたいと思ふ。

○蔬菜では

馬鈴薯

春植えて夏には收獲が出来る。甘藷とは

ちがひ、小供にでもらくに掘り採れる。房のや
うに着いた薯を、手にした時の小供の喜びはど
うであらう。日あたりさへ良ければ、土地の嫌
いはあまりない。日あたりがわるいと、枝葉許
り育つたり、病氣に罹つたりしやすい。寒氣に
強く、且つちき收獲期になるのであるから、せ
いせい植付を急ぎたい。東京では三月初めに、
春の、他のもの、先きに植える。植付を遅れる
と收量が尠くなる。

種薯は鶏卵大のは其儘に、大きいのは縦に二分
する。堆肥があるとよいが、なければゴミ、土で
もに灰や米糠を混ぜて、此處に三四寸の厚さに

土のかぶさるやうに植え付ける。

枝豆

なつた豆を摘ませて、株なり抜かせてもたのしい、殊に採つてから煮て饗應でもすると一層である。

普通四月に播くが、これでは夏休み中に収穫するやうになるから、ずつと遅れて六月頃に播いて、秋十三夜頃採れるやうにしたいと思ふ。

土地は瘠せて居つてもよくなるが、日あたりが悪かつたり、餘りこんで播いたりすると、木許り育つて實着きが乏しい。肥料は餘り要らぬ、肥えて居る地所なら、米糠と灰計りでもよい、一處に、三四粒宛點播きにする。

落花生

矢張り豆ではあるが、土中から收れるから面白い。繭のやうな、きれいな可愛い粒が、

百も二百も鈴なりになつたまゝ採り得た時は、大人でもうれしい。花咲爺のお伽話其儘の氣がする。それに一旦收獲したあとからでも、土を動かす度に幾つも幾つもコロコロ出て来る。『斯様

な畑に小供を放してやつたら、鳩のやうに』と

いつも思ふ。枝豆のやうにおやつにも適して居る。播くには外の殻を去り、四月頃に二三粒宛點播にする、矢張り肥料は餘り要らぬ。十月に

収穫出来る。

場所が充分あるなら、甘藷もよい、これは遊歩場の端のやうな、一體に瘠せた場所によく出来る。

種子を播いて小さな實生を間引たり、蟲を拾はせたり世話をさせたいと思ふなら、菜でも、大根でもよい、しかしこれ等は夏秋に播くものであるから其頃に述べたいと思ふ。

春の蔬菜に茄子とか瓜の類があるが是等は栽培が困難過ぎる。

草花では

東京以西では今月末、即ち彼岸前後が蒔き時であるが、東京では少し遅らし、四月に入つてからでよい。もつと寒い地方になると尙ほ遅加減にせ

ねばならぬ。どんな花を蒔くかといふに夏から秋にかけて咲いてゐる花は、凡て今頃即ち春に蒔けばよいのである。尤も同じく夏秋の花でも、菊とか芙蓉のやうに年々冬を越して株で殖える、所謂宿根草の物では種子を播くといふよりも、株分けにす可きで、時季は一體に暖地では、秋彼岸前後にして置く方が苗の育ちが良いし、寒地では春暖を待つ方が安全である。

花にも、松葉牡丹やパンジーのやうに小さくて可愛らしいのもあれば、ダリアとかコスモスのやうに枝の大きく繁茂するものもあり、又向日葵のやうに伸びる一方のも亦朝顔やスキートピーのやうに蔓になつて支柱にすがらさねばならぬものもある。是等は夫れ夫れ作る場所とか目的によつて選ぶ可きで、花壇の縁植とか可愛い鉢物にならなくとも、人もりとしたものがよいし、花壇の中に植えたり又枝を切つて挿す、即ち切花用になら花枝が相當に伸びて且つ數の多いものがよい。又花壇の後方

を植ゑつ、ぶしたり、垣根用になら丈の高いものや蔓の物でなければならぬ。それで幼稚園では、どちらかといふとせいゝ花期が永くて、枝の多い始終切つてつかはれるやうな、しかも栽培の容易なものを選びたい。

實生物では、コスモス、おしろい花、百日草、天人菊、姫ひまわり、トレニア等で鳳仙花は花期が短く、アスター(翠菊)は害虫が着き易く、鶏冠は切花に適せず何れも廣く作られて居る花ではあるが思はしくない。

株別物では、ダリア、シヤスタージェイ、くさきやうちくとう(おいらんさう)、むらさきつゆくさ、ストケシア、サルビヤ(多く挿木にする)等は夏、花の少い季節にもずつと咲き通して、切花にも好ましい。

又小供にめいめい鉢苑、丹精させたいと思ふなら朝顔は、四月に播くと、早や夏休み前から花を見られ、しかも双葉の時から可愛くて、花は割

合に大きいし、害虫と云つては殆んどなく、まことに小供にもつて來いの花であると思ふ。栽培法は後に説く。

菊も鉢作りによいが殆んど一年間も手数がかり、此間の手入がなかなか容易でなく、小供には骨が打れ過ぎる。

播方を略説すると

苗床にするなら、陽あたりの良い、風のあたらずぬ所が一般によい。四五寸の高さの床をつくり土をよく碎き、均らして、むらなく播き、うすく糞殻か、切藁をふりかけて置くとよい。乾燥に過ぎないやうに灌水に注意せねばならぬ。

苗床の場所がとれないなら、苺とか蜜柑の空箱でも菓子箱の古いのでも、摺鉢の傷物でも、當分土を容れて置かれるものなら何でも構はぬ。唯だ底にすき間があつて排水がきくやうにさへ注意して置けばよい。

下底の孔の處に貝殻でも、鉢片でも入れて、土ど

めにし、細く篩つた土を入れ、叮嚀に播き、灌水して芽の出るまでは陽の直射せぬやう、新聞紙でも被つて置くとよい。但し苗床の場合よりは灌水に一層注意をせぬと、折角出かけた苗を一朝にして枯らしてしまふ事が多い。

○新刊紹介 フレーベル傳

(H・W・フレーベル氏原著、岩村清四郎氏譯)

この書は著者が偉人フレーベルの經歷を世に紹介せんがために一般に得らるゝ材料は勿論、普通得難き材料まで漏なく蒐集して親切に丁寧にもた深き同情と熱誠とをもつて物せられたもので譯文も亦流暢、一讀してこの幼児教育界の一大偉人一大恩人の生涯をしのぶに餘りあるものであります。フレーベルの學說の宣傳せられてより既に百年、其の教育意見に關する諸學者の著述は極めて多いのですがフレーベル其人を紹介し其生活の事實を我等に示す『傳記』が未だ世に出なかつたのは寧ろ奇とする所でありませぬ。この著を得、又岩村氏の譯によつて我國にもこの偉人の傳記の紹介せられた事は誠に喜ばしい事でありませぬ、たしかに一讀の價值があると思ひます。(發行所、神戸頌榮保姆傳習所、賣捌所、東京警醒社、教文館、定價七十五錢)

『おもちゃ繪』の話

——日本幼稚園協會二月常會の講話——

文學士 權田保之助

只今は、倉橋文學士から、非常に有益な、また面白いお話がございましたが、私は實際、教育——ことに児童教育幼児教育には無經驗の者ですから、其方面にとつても面白いお話はむづかしいと思ひますが、今、これからお話致さうと思ふ「おもちゃ繪」の話は、全く私が五六年まへから自分の趣味として、集め初めたものについて、之に何等かの意味をつけたいと云ふ考から急にやり出したもので、特別の方針、主義、目的のもとに集めて其結果を發表すると云ふのではありません、只今、倉橋さんのお話を伺つて居て、それがおもちゃ繪の話の一番おしまひに来る結論の裏書をして頂いた事になるので、非常に面白く感ずるのであります。

別室に「おもちゃ繪」を陳列しておきましたが、これはもとより趣味の上から集めたにすぎぬものですから、大海の一滴にもあたらないのですが、今日は先づ實物を見て頂くを主として、それにつけ加へて少しばかりお話したいと思ふのであります、たゞ一寸附げ加へて申上たいのは「おもちゃ繪」は子供がもてあそぶものですから非常に手垢でよごれてゐます、お目にかけるものの中にも紙の左右の端が手垢がつきボロボロになつてゐるのがあります、きたないと云ふ感をお起しになるかもしれません、が其處をよく御了解を願ひたいとおもひます。扱、

○おもちゃ繪とは何

「おもちゃや繪」と云へば、一寸考へてすぐわかる様ですが實際は難しいのであります。私が嘗つて

東京で有名な、おもちゃや繪蒐集の人から見せて貰つたものは、玩具を主題とした繪ばかりでありました、しかし私の考では、かゝるものは、大人が喜んで弄ぶもので、大人の一種の趣味のために存するものであると思ふ。私の云ふ「おもちゃや繪」とは、子供を主としたるもので即ち、おもちゃや繪の享樂の主體が、子供にあると云ふ事である、且これを樂しむとしてもこの繪がたつた一枚では仕方がない、方法の如何をとはす多量を製作する事が必要である、即ち其方法としては昔は木版であつたが、今は印刷術によるのであつて幼年雜誌が多數に作られて居ります。

そこで、おもちゃや繪とは、子供を享樂の主體とする版畫なり、と云ふ事が出來ます。

○おもちゃや繪の種類

先づ解りやすく表にあらはせば次の如くになります。

甲、本來のおもちゃや繪

A. 現相世界を抽いたもの

- (一) 子供の世界を寫出したもの
- (二) 大人の世界を寫出したもの
- (三) 大人の世界を子供に置換へたもの
- (四) 新興の文明現象を寫出したもの
- (五) 何々づくしと稱するもの

B. 假相世界を抽いたもの

- (一) 子供の理想界をあらはしたもの
- (二) 童話を抽いたもの
- (三) 現實世界を空想化したもの

乙、第二義的のおもちゃや繪

- (一) 抱瘡繪(實用的意義より轉化したるもの)
- (二) 凧繪
- (三) 教訓繪
- (四) 細工をして娛しむ繪
- (五) 繪玩具
- (六) 俚謠を繪にかけるもの
- (七) 七つぢうら繪

今この各々について次に説明致しますと

本来のおもちや繪とは繪そのまゝを子供がたのしむので第二義的とは其儘で樂しむのでなく之を剪るとか、貼るとか、組立てるとか、或は双六、十六むさし、加留多など繪をもとにしたる玩具を云ひます。

(甲) 本来のおもちや繪

A. 現相世界を写したるもの

(一) 子供の世界を寫出したもの——即ち子供の遊びを寫出したもので、一番子供の樂しむものとしては適當なるものであります、かの浮世繪で有名な「國芳」と云ふ人が盛にかいて居る、しかし、これは子供のためと云ふよりも大人が子供の遊びを見てたのしむと云ふ方面から、寧ろ、大人のために書いた傾向がある、繪も奇麗であり、又價も高く精巧に出來て居ます、随つて純粹な意味で「おもちや繪」とは云へません。しかし其の中にも三代目廣重がかいたと思はれて居るものは價もやす

く、子供のためにかいた子供の遊びの繪と云へませう。

(二) 大人の世界を寫出したもの——子供は自分だけの遊びを書いて貰ふよりも、彼等にとついても珍奇に映ずる所の大人の世界をかいてもらふ事を誠に喜ぶものです、しかしこの中にも男兒は同じ大人の世界を寫すにも、其戶外生活を喜び女兒は室内生活を喜ぶ、又男兒は特に力のある、しかも團體運動が好きで例へば多人數の行列するのが彼等の興味に合するので古くは大名行列、火消し、お祭りの繪など多く、現今では之が兵隊の行列、軍艦のやらんだ所などに變つて來たのであります。これに對して女兒は「所帶しよたいづくし」と云ふ様なものや、臺所道具をならべた繪などに興味を感ずるのであります。

(三) 大人の世界を子供に置き換へたもの——これは、一層大人の世界を子供に近づけるのであつて大名行列にしても、火消しにしても、皆子供がす

ると云ふ事になつてこれにより子供は非常の興味を感ずるのであります。

(四)新興の文明現象を寫出したもの——子供ほど新しい現象を面白がるものはない、彼等には古い傳説も習慣もない、其處で新しく起り來る文明現象に一番よく注意するために之を寫し來つて「おもちゃ繪」にする、實に新文明を持ち來つて樂しむのは「おもちゃ繪」が一番早いのであります。

繪のみならず玩具でも、また、そうであつて、今の様に自動車がはやれば、すぐ其玩具が出來、飛行機がとべば、すぐ、之を玩具につくる、(實際の飛行機よりも玩具の方がよくとぶ位である)人力車、相乗りの流行つた時代には其繪が出來、外國人が來ると異人さんのおもちゃ繪が子供に喜ばれる。

(五)何々づくしと稱するもの——馬をならべて馬づくしなど、云ふ類で兎に角、子供の事物に對する概念的の知識を整理するので、彼等の好みに應

じながら之を一つの場合に入れて行くと云ふ、先づ知識教育に關するものであります、馬づくし、鳥づくし、貝づくし、八百屋づくし、蟲づくし、植木づくし、面づくし、などいろくあります。

B. 假相世界を抽いたもの

これが實に「おもちゃ繪」としての本領を發揮する所であつて子供が本來空想的なもの故か、る部門のあらはれるのは當然な事であります。

(一)子供の理想界をあらはしたもの——こゝに理想と云つても元來「おもちゃ繪」書きは教育にたづさはる様な人でありませんから、其理想もごく卑近なもので先づ人格上の理想としては男兒のためのものとしては英雄豪傑を畫いたもの、即ち武者繪があり、女兒の之に對立するものは姉妹繪即ち世の母親、姉、又は老人の生活などは理想になるので、なかには如何はしい姉妹さへ書かれて居る。

肉體上の理想としては男兒は強力をよしとして此處に角力繪が出來、之に對して女兒には役者繪が出

来る。

(二) 童話をあらはしたるもの——これには純粹の童話：即ち桃太郎かち／＼山など……をあらはしたものと、おもちや繪のための童話：即ち或は狐、狸など一種滑稽味をおびた動物の傳説をもととして童話に似たものを作つたもの……をあらはしたものとがあります。

(三) 現實の世界を空想化したるもの——子供はあらゆるものに對して同情を持つて、自分と全く同じものと見做し、同じ仲間とする、實に子供の空想は大空想で、生命なきものも之を捉へて現相世界に活躍させる。猫の芝居、たこ入道の芝居などの繪も出來また酸漿キイチビを人間にして、入浴、「姉様ごっこ」などのおもちやが出來る、又は獸をつかまへて商人に見たて、或は虎を竹屋に、羊を紙屑屋にしたりする。實に「おもちや繪」としての面白さ純なるものが此處にあるのであります。

(乙) 第二義的のおもちや繪

(一) 疱瘡繪——これは實用的の意味から變つて來たもので、昔から疱瘡には赤い色がよいとなつて居る、即ち疱瘡にかゝらぬ様に、またかゝつても軽くすむ様に、惡鬼退散の意味で、例へば鍾馗しよんきが鬼を追拂つて居る所などを繪にする、それ故實際子供が見ても親しみのないものであります、其後此種の繪も次第に變つて、だん／＼おだやかな繪になつた様です。しかし色は何處迄も赤を用ひ、全體を赤色にして、之は子供の玩具箱おもちゃばこの中に一枚づゝ入れて、謂ゆるまちなひにするのであります。

(二) 風繪——これは、かの繪風かづか、字風じか、など云ふ時の風かぜに書かれた繪の事を云ふのでなく、風かぜに用ふる繪をそのまゝ繪として、繪の上で楽しむのであります。

(二) 教訓繪——人に人倫五常の道を知らせる繪で面白いものではない。この種のものはいち多くはありませんが其後次第に變つて、初めは此目的で出發しながら筆者が途中から諷刺的になつた

り、滑稽化したりして遂に反對に非教訓的になつてゐるものも少くないのであります。

(四)細工をして楽しむ繪——これは剪り組み細工をして遊ぶもので例へば箱を作るとか、或は切り組み燈籠とうろうとし或は千代紙などと云つて剪つて遊ぶ繪を云ふのであります。

(五)繪おもちや——繪を以てこしらへた玩具であつて玩具にするための繪ではないので、例へば、十六むさし、双六、かるた、目かつら、福笑ひ、あてもの、影繪、判じ繪など之に屬するものであります。

(六)俚語を繪にかけるもの——これは、大人の趣味に合するものが多い。尤も一時非常に流行して子供に喜ばれたチンワン節ちんわんぶしを繪にしたものがあります。これはその節と共に子供に縁の深いものでもあります。ありますが、其外尻取文句しりとりもんくを書いたものなどもあり、一つとや節を繪にしたものもあります。しかし何れもあまり子供には親しみのないものであり

ます。

(七)つちうら繪——これは辻占に入れるものを集めたもので、大人の一種の趣味には合するものであるが、子供のものとしては決して善いものではありません。

○おもちや繪の歴史

大した歴史と云ふ程のものもなく、其の起源、變移など記録もなく又詳しく調べても居りませんが大體を申しますと其起源は古いので——明らか
に時代はわからず——しかしそれが「おもちや繪」としての確かな位置をしめる様になつたのは安政の前後と思はれる、しかして更に眞の意味を持つ様になつたのは明治維新を中心として其前後二十年乃至三十年の間であります。明治になつてからは社會の状態も、また、其の心理も變化し、其上に印刷術が變り且繪具のよいのがなくなると云ふ所からこのおもちや繪も衰頽すゐたいの運命に陥り再び見

るべきものなきに至つたのであります、しかし今日
は全然ないと云ふのではなく明治四十年頃のもの
も、又、大正になつてからも見られるけれどもし
かしもはや昔の姿はないのであります、しかし普
通の錦繪浮世繪などに比べれば其壽命は先づ永か
つたと云へませう、即ち其のよい種類が後になる
程出て居るので其錦繪などよりも永くつゝいた原
因は、其發達が遅く若々しかつたため餘勢がつゝ
いたと云ふ事と其の終り頃におもちや繪の天才と
も云ふべき「芳藤」が出て明治維新前後三十年乃
至四十年に亙つて盛に製作したためであります。

○おもちや繪の筆者について

おもちや繪のごく初期の筆者にどんな人があ
つたかは、よくわかりませんが、繪に署名もなく知
る方法がないのですが、しかし兎に角、之をかい
た人の内では「國芳」の門人が一番多いので、而
らば國芳は如何にと云ふに、この人自身かいたと

云ふ説と書かぬと云ふ説と二通りあります、けれど
も書いたとしてもそれは私の定義したおもちや繪
ではない様です、門人には随分あるので芳虎、芳
幾、芳員、芳艶、芳盛、芳藤、などが盛んに書い
て居ます。又同門下以外の人でも國綱、國政、國
郷、國利、艶丸など居りますが、大したものでは
ありません、かの有名な廣重の二代目、三代目、
が若くして廣重と云はず重宣、重政と云つた時代
に書いたものもあり、又かの北齊のものも少しは
ありまして、お湯屋の切り組み燈籠などは有名な
ものであります。しかし製作の數から云つても其
價值から云つても第一は芳藤で芳藤は實に天才で
す彼によつて「おもちや繪」は大成し、またこの
人とともに亡びたのであります。

○おもちや繪の趣味

前にも申し上げました様に「おもちや繪」は子供
を享樂の主體とする版畫であります、この、子

供と云ふものを本として考へると子供を樂しませるためには其の趣味にあふ様に、またよく其心理を了解しなければなりません、しかもまた子供が自由に樂しみ得るためには値段が安くなければならぬと云ふ經濟上の制限があり、且、「おもちゃや繪」は版畫でなければならぬと云ふまた製作上の制限もあります。

扱て其趣味の一つは版畫であると云ふ事——即ち錦繪の趣味——で即ち堅い木の上に繪具を塗り、其上に水を吸ひ込む紙をのせて、竹の皮で擦ります、すると繪具が紙に滲み込む、其處に味がある、今この印刷は繪具を紙の上にのせますから、紙から光が反射してキラ／＼します、そのために一旦滲み込んでから撥ね返ると云ふ滋味はありません、のみならず版畫は堅い線の上を擦りますから線が明瞭してクツキリと出ます此處が肉筆ではとてもあらはされない所です。

次に「おもちゃや繪」の味は安い版畫であると云

ふ事にあるので、紙は安いのをを用ふるのは勿論ですが金のかゝるのは繪具と版木です、先づ繪具は出来る丈け色の種類を少くし普通四種位を用ひて、あらゆるものを現はそうとするのでどんな複雑な色のものも之を三つか四つに分解し決して間色を用ひないのであります、即ち「おもちゃや繪」では生のまゝの色をそのまゝ用ひるので、かの新しい洋畫家が印象派などと云つて單純な色によつて新鮮な氣持をあらはすのと似て居ります。

しかし「おもちゃや繪」の本領はこの安い版畫と云ふ仕方のない方面ではなしに、子供の心理、其趣味に適すると云ふ事にあるのです。

素樸なる事——子供に合ふ一つの味としては素樸的と云ふ事で、全體の構圖も色も形も、又、其意味も素樸である、まはりくどい堅くるしい事は棄て、たい有りの儘を無邪氣にあらはす、これが「おもちゃや繪」のもう一つの味であります。近代文明の中に毎日押し込められて居る我々はこの

繪に接する時、實に一種の自由を感じ、新しさをうれしく思ふのであります。

清新なる事——子供は停滯を忌むものです。子供は實に飽きやすく常に新しい刺激を要求して之に同化し共鳴するものであります、彼等には傳説もなく、古めかしい、いやな約束もありません、そこで「おもちや繪」では傳説とか習慣とか云ふものを顧慮する必要がなく、飛行機が出來たと云へばすぐ之を繪にする、又玩具につくつて楽しむ、自動車が走ればすぐにまた之を取り入れるのであります。かの大人を對象として書いて居る文展の日本畫には未だ飛行機も自動車もあらはれず、相變らず駕籠かこに乗つて旅をする所や、牛の車に乗つて春の日を櫻狩に出かける人をかいて居るのを思へば「おもちや繪」はこれによつてのみ味ひ得る一種の鮮新の感がおこるのであります。自由なること——子供には一定の型にはまつて物事を見ると云ふ事が出來ないので、有りの儘、

正直なもので厭いやなものは厭いやですし、食べたければ遠慮なく其欲を充す事に熱中し、悲しければ思ふまゝに泣くと云ふ風であります、そこで「おもちや繪」にも其構圖、形、色、題などに實に自由奔放な所があつて古き型に捉はれない、これは四六時中、形にのみ押しこめられてゐる我々が見て一種の面白味と輕快なる感とをおこす所以であります。

空想的なる事——子供は何をとらへても之を自分化する——自分と同じ様に生命あるものと見てもしまふ、すべてが自分の友達であつて茶碗に向つても机に向つても平氣で話を仕かける、即ち事物に對する深き同感を有するもので、實にこれ程美しい空想はありますまい。「おもちや繪」はこの子供の心持をよく現はして居るもので、「おもちや繪」の面白味の大部分は此處にあります、猫の芝居とか酸漿はちまきの遊びとかたこ入道の芝居とか云ふ繪を見て我々は實に面白く思ふのでこの點から云へ

ば「おもちゃや繪」は空想の純の純なるものとも云へませう、其空想とても我々大人の描く様な理屈づめの冷たい野心的のものではありません、暖い、そして萬有が自分のお友達であるとの同情を根底とするものであります、近頃ひねくれた空想があつて藝術家などがいろ／＼流布して居る時にかゝる同感に充ち／＼た空想のあらはれに接するとき一種爽快を覺えるのであります。

自然法を超越する事——子供の驚くべき空想のまへには自然界の法則は何等の權威を持ちません、かの童話が已に自然法を超越して居ります様に「おもちゃや繪」は實に寧ろ痛快を覺える迄に自然法を超越して居るのであります、毎日毎日この法則の中に鐵の鎖でつながれて、爲る事も話す事も一々、右に左に顧慮しなければならぬ我々の生活にとつてこの思ひ切つて自然法を打破り、否超越して居る「おもちゃや繪」の存在する事は誠に愉快な事であります。

○「おもちゃや繪」と兒童

及幼年繪雜誌との關係

前から申しました通り子供は非常に空想的なものであります、が兒童及幼兒教育には此の空想——萬有に對する深き同感——をよく指導し、充分發達させる事が大切で、「おもちゃや繪」及幼年繪雜誌の存在の價値は此處にあります、實際、子供の時代によく空想をおこしたものが大人になつてから人格的に偉大な人間となるので——俗に謂ゆるえらい人間になるかどうかはわからぬが——然らば子供の空想を善導するには如何にすればよいかと云ふに先づ彼等子供の心によく共鳴し同感して行く事が必要であります、扨今日行はれてゐる多くの幼年繪雜誌はどうでありますか、眞に子供の心、其の生活に共鳴して其間から自然と湧き出して繪となり雜誌となつて居るものは殆どありません、大人の自分の勝手に考へ出した變な趣味を

子供に押しつけ様とする嫌がある、我々大人が見て閉口しなければならぬ様な難しい教訓がならべてある、其道具だては結構であるがしかし子供に真に同感する温情も生命も其處になく子供はかゝる繪に接しては恰も乾物の魚を見る如く、生きて動いて居る魚を知らずに終る事になる。

大人の世界、大人の趣味からのみ、子供を見ると云ふこの矛盾から、外面的に子供を面白がらせると云ふ事が起つて来る、其處から「斯々の生活が子供を幸福にする」と云ふお膳立てを此方からこしらへて出す様になる、子供は泥の中に轉がつても其處に愉快を感じるものであるのに之を忘れてしまつて「日曜日にはお父様、お母様、皆連れ出つて自動車にのつて上野へ行く」又は飛行機でとびまはる、これは楽しい生活であると云ふ様に表示す、私は何も泥の中に轉がるのを賛成するわけではないが、しかし、眞の喜びを忘れてたゞ外面的にのみ大人の喜びさうなものを書く事を實に遺

憾に思ふ。もし現今繪雜誌にあらはれて居る様な子供の生活が眞に幸福ならば我々の如き資力足らざるものは子供を満足させ幸福にするためには破産しなければならぬのであります。かく考へ來れば現今の繪雜誌は無用の長物、否寧ろ有害無益なものと云はなければなりません、子供の内的生活に共鳴して、一片の木切、一塊の石ころの中にも子供にとつては無限の喜びがあり詩も歌も音樂も此處にひそんでゐる事を教へてこそ、以前の「おもちゃ繪」に匹敵すべき現今の繪雜誌の使命其存在の理由があるのではありますまいか、しかるに虚榮の生活をのみ教へるのを唯一の題材として居る事は子供の趣味性を損ひ、狭き範圍におしこめて變則な發達をさせる事になるのであります、此の點から私は「おもちゃ繪」の天才「芳藤」について一言せざるを得ないのであります。

芳藤は平凡な繪書きで、名を西村藤太郎と呼び國芳の門下生でありました、初め「一鵬齋芳藤」と

云つて廣く美人繪、武者繪などを書いて居りましたが維新の十數年前から「おもちゃ繪」を書く様になりこゝに一生涯を開いたのであります、而して其繪は質に於ても――よいものを書いたこと――量に於ても――澤山書いた事――他の人のとても及ばぬ所です、淺草に住み純粹の江戸兒でした、明治二十何年かに歿した人です、彼の生活の一面をあらはす逸話が残つて居ります、それは或る時、彼は朝湯に出かけ襦袢どてらをひつかけて湯から出て來ると、獅子舞ひが大鼓をたゝいて行く其あとから大勢の子供がついて行くのにあひました彼は手拭を肩にかけて、その儘何處までも之のあとを歩いて行つた、家の人は何うしたことかと不審に思つてゐると晝すぎに間の抜けた様な顔をして塵だらけになつて、ひよつこり家に歸つて來たと云ふ事ですがこれは彼がいかに子供の心に同感し、子供とともに生活したかを語るものでせう、實際彼の繪を見て居ると子供に對する無限の共鳴

同感のあふれて居るのを感ずるのであります、今日、一人でも、かゝる繪かきがあればよいと思ふ、芳藤は難しい教育上の意見、主義は知らなかつた、しかも彼は、子供とともに喜び、子供の生活の中に深く生きて行かうとする哲學を知つてゐた、彼には兒童心理學はなかつたが實際體得した同感の心理學があつたのです。

私は今日幾千の有害な繪雜誌の世に行はれるよりも唯一の「芳藤」が出て子供の心に共鳴して欲しい、たつた一人でよいから眞に子供に同感ある繪をかいてくれる人の、あらはれん事を熱望してやまない次第であります。(筆記)

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タルモノトス
ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金拾五錢ヲ賦出スヘシ。會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年四月總會ヲ開キ、二月、六月、十月ノ第二土曜日ニ例會ヲ開ク。但場合ニヨリ例會期日ヲ臨時變更シ又臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、 幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
 - 一、 幼兒教育ニ關スル講演會及講習會ノ開催
 - 一、 雜誌發行(毎月一回)
 - 一、 幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、 保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、 其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 副會長 一名 會務ヲ輔佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹、幹事、評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 此規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサルレハ變更スルコトヲ得ス

加盟保育會

東京市保育會	京都保育會	大阪市保育會	神戸市保育會
靜岡縣保育會	名古屋保育會	香川縣保育會	福島縣保育會
吉備保育會			

湯原 元一	倉橋 惣三	井村 くに	土川 五郎	乙竹 岩造	榎山 榮次	折井彌留枝	坂井 ふで	巖谷 秀雄	戸野周次郎	大村 芳樹	棚橋源太郎	野上 俊夫	福士末之助	福井 光華	東 基吉	菅原 教造
會長	主幹	幹事	評議員	地方委員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員	客員
		(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)	(イロハ順)
		池田 トヨ	奈良山 梅	吉田 熊次	藤井 利譽	大和田りょう	司馬 のぶ	岩谷英太郎	大瀬基太郎	嘉納治五郎	多田房之輔	久留島武彦	小西 信八	澤柳政太郎	馬上孝太郎	
		坂内 ミツ	小向 きみ	田中 ふさ	下田 次郎	坪内 きく	望月 くに	波多野員之助	奥好 義	唐澤 光徳	田中 敬一	松本亦太郎	小磯 吉人	岸邊 福雄	森川 正雄	
		和田 實	小高 つや	野口 幽香	日田 權一	字式 かん	膳 たけ	細川潤次郎	尾田 信忠	谷本 富	中村 五六	松本孝次郎	淺岡 一	瀨川 昌書	尺 秀三郎	
		和田 くら	杉本 ふみ	安井 哲		久住 モト		本間 辰藏	大久保介壽	高島平三郎	野尻 精一	富士川 游	雀部 顯英			

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼垂 雑誌 良友

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べる、であらうか。單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區 小石川電話 六一八二 六一九二

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

幼兒教育 第十九卷第三號

大正八年二月廿八日發行

本誌

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場